

## ⑤造影剤を使用する検査に関する説明書

### 《造影剤について》

造影剤は、体の中を鮮明に抽出し、診断をより正確に行うための検査医薬品です。通常は静脈内に注射して使用します。腎機能が正常な方であれば速やかに腎臓から尿として排出されます。

### 《造影剤の副作用について》

造影剤の副作用は、ヨード系造影剤（CT、血管、尿路用）では5%以下、ガドリニウム造影剤（MRI用）では2%以下といわれています。軽い副作用としては、くしゃみ、かゆみ、発疹、嘔吐、動悸などがあり、治療が不要か1～2回の投薬、注射で改善します。重い副作用では血圧低下、呼吸困難、意識障害などがあり、発生の頻度はヨード系造影剤で0.04%程度、ガドリニウム造影剤で0.01%程度とされています。

また、10万人から20万人に1人程度の割合で死亡例も報告されています。

また、まれに数時間から数日後（多くは2日以内）に遅発性副作用が現れることがあります。（発疹、かゆみ、むくみ、吐き気、のどのイガイガ、咳、冷や汗、動悸、脱力感、めまい等）

### 《血管外漏出について》

勢いよく造影剤を注入するため、血管外に薬が漏れることがあります。この場合には注射した部位が腫れて痛みを伴うこともあります。通常は時間がたてば吸収されますので心配いりませんが、漏れた量が多い場合には、治療処置が必要となる場合があります。また、注射の痛みが数日間持続する場合があります。

副作用や血管外漏出に対応できるよう万全な体制を整えておりますので安心して検査をお受け下さい。

## 検査前のご注意

### 《食事制限について》

午前の検査の方は朝食を、午後の検査の方は昼食を摂らないようにして下さい。水分摂取の制限は特にありませんが、過剰摂取は控えていただき、脱水にならないよう適度にお取りください。

### 《一部の糖尿病薬の制限について：CT用造影剤を使用する場合のみ》

ヨード系造影剤を使用する検査の場合、以下の糖尿病薬を服用中の方は、検査日前後2日間の休薬となります。他のお薬の場合はいつも通り内服して構いません。なお、他院で糖尿病薬を処方されている患者さんは、ご自身で担当医師へのご連絡をお願いします。

※検査日前後2日間の休薬となるお薬（ビッグアライド系糖尿病薬）・・・メルピン、メトグルコ、メトホルミン、グリコラン、ネルピス、メデット、メトリオン、ジベトン、ジベトス、ブホルミン等

### 《授乳について》

授乳中で検査を受けられる場合、検査前に2日分の搾乳を行って下さい。検査後2日以内に搾乳した母乳は、造影剤が移行する恐れがありますので、捨てて下さい。（造影検査後、2日間は授乳は控えてください。）

## 検査後のご注意

1. 造影剤を早く体外へ出すために、積極的に水分を摂って下さい。（コップ2杯程度）
2. 検査終了後1時間～1週間までの間に発疹や痒みなどの皮膚症状が遅れてあらわれる場合があります。そのような症状が出た場合は当院までご連絡下さい。